

【市長メッセージ】 11月24日 武蔵野市平和の日にあたって

みなさん、こんにちは。市長の邑上です。本日、11月24日は、武蔵野市平和の日です。平和の日にあたって一言述べさせていただきます。

昭和19年11月24日の昼過ぎ、ちょうどただまの時間の頃、現在の市役所から都立武蔵野中央公園にいたる約70haもの範囲にあった中島飛行機武蔵製作所上空に、多くのB29が姿を現しました。中島飛行機武蔵製作所は、ゼロ戦のエンジンを製造する日本でも有数の軍需工場であったため、米軍が首都圏への本格的な攻撃を始めるにあたり、真っ先に標的となったのです。

当日の犠牲者は57人、負傷者は75人とも言われています。10代、20代の若い人たちも多かったとのこと。その後、空襲は終戦直前まで続き、工場を狙ったものだけでも9回を数え、周辺の住民を巻き込み、数百人を超える尊い命が犠牲となりました。

戦争の悲惨さと平和の大切さを市民の皆さんと共有し、子どもたちに伝えるために、本日11月24日を武蔵野市平和の日として制定いたしました。

今、工場跡地は、この市役所をはじめ、緑豊かな住宅団地や広大な公園となり、市民の平和な生活が営まれています。公園では、紙飛行機が飛び交い、子どもたちが遊び、バーベキューで楽しむ家族がくつろぎ、多くの市民の憩いの場所となっています。戦争の傷跡を残すものはなくなりつつあり、当時を知る人も少なくなっています。私たちは、先人たちの労苦をしのび、犠牲となった方々を悼むとともに、公園を駆けめぐる子どもたちの笑顔が輝く光景がいつまでも続くよう、平和の継承に向けた不断の努力を惜しんではなりません。

本年、初めての武蔵野市平和の日を迎えるにあたり、昨日は、武蔵野公会堂で「ピースむさしの未来をひらくつどい」を開催しました。そして、本日、早朝に都立武蔵野中央公園南側の市有地にて、平和を祈って記念植樹をいたしました。

武蔵野初空襲より67年がたちました。戦争の記憶を風化させず、その悲惨さから平和を守ることの大切さを学び、次の世代につなげていきたいと思っております。

今後、私たち武蔵野市は市民の皆さんとともに、国際相互理解に努め、恒久平和の実現に努めてまいります。私は、武蔵野市の市長として平和推進の先頭に立って、子どもたちに核も戦争もない平和な未来を継承していくことを誓います。



中島飛行機武蔵製作所を空襲するB29



武蔵野中央公園(南側)にて記念植樹



平和への願いを込めバルーンリリース

2011年11月24日

武蔵野市平和の日にあたって 武蔵野市長

邑上守正